

事業団だより

やまなみ

2011
冬
Vol.4

謹賀新年



写真提供：信州まつもと空港利用促進協議会 北アルプスとFDA運航のジェット機



一層の発展を期す
長野県社会福祉事業団理事長 辰野恒雄

新年明けましておめでと
うございます。

隣国では南と北とで混乱
が生じていますが、わが国
におきましてもいじめや虐
待が引き続き発生してお
り、深刻な社会問題を呈し
ています。その多くは家庭
や学校が舞台となり、改め
て人と人のつながりと地域
づくりの貧困さが浮き彫り
になっていきます。

さて、事業団は今年度開
設45年を迎えましたが、4
月から新たに三つの事業所
の運営が加わります。知的
障害児施設「信濃学園」、
情緒障害児短期治療施設
「松本あさひ学園」、そして
「上伊那圏域障害者総合支
援センター」き
らりあ一です。

児童への取
り組みは初め
てであり、と
りわけ、知的
障害以外の領
域への踏み込
みには緊張を
覚えます。さ
らに、相談支
援事業の最前
線である支援
センターでも
「らしさ」の
構築をと考え
ています。

こうした動きの中で考え
ることは、まさに第44回全
国社会福祉事業団大会の
テーマ「経営力強化と改革
力の創出」で言われた、人
材の育成が一番の土台とな
ることです。発達障害や精
神障害にも対応できる専門
研修を一層充実させ、今年
度から採用を始めた心理職
員の適正配置・業務などに
もしっかりと心配りをして
いくこととなります。

最後に、事業団は高齢者
や障害者等の権利擁護や地
域づくりの取り組みについ
ても、他の機関と共に励ん
でまいる所存です。
皆様のご多幸をお祈り申
上げます。

特集
記事

「働く」を考える ③
一般就労に向けた取り組み

連載
記事

事業所リレートーク

チャレンジ・アクション
『祭でつながる地域と施設』

つれづれ福祉
『風よ吹きわたれ～ボランティアのススメ～』

トピックス／人事異動／プレゼント



今回は『「働く」を考える』の最終章として事業団の「一般就労に向けた取り組み」を紹介するとともに、これまでに取り上げた「西駒郷授産部門の変遷」「新設就労支援事業所の取り組み」を踏まえて「働く」を考えます。



「働く」 を 考える

特集

③ 一般就労に向けた取り組み



このページの写真は「松本ひよこ（就労移行支援事業）」の風景です

特集

はじめに

就職難といわれる今日、「障害者が一般就労すること」自体が狭き門であることは、想像に難くないと思います。

実際、障害者自立支援法が平成18年度に施行され、さらに平成19年に取りまとめられた「成長力底上げ戦略」にて、「福祉から雇用へ」推進5か年計画」が策定されたことにより、障害者の地域における福祉的就労から一般就労への推進が一層図られることとなりました。しかし、ハローワークにおける障害者の新規求職申込件数に比して、就職件数は、平成18年度からほぼ横ばい状態が続いているほか（左グラフ参照）、厚生労働省調査の資料（*注1）では、就労系の法定社会福祉施設（小規模作業所含む）から一般企業

への就職は年間1%から2%にとどまっている現状にあります。また、障害者自立支援法では一般就労への移行を支援する「就労移行支援事業」もありますが、同法が施行されて僅かに5年弱という歴史の中では、本事業の実効性・有効性も検証しきれいなのが実情です。

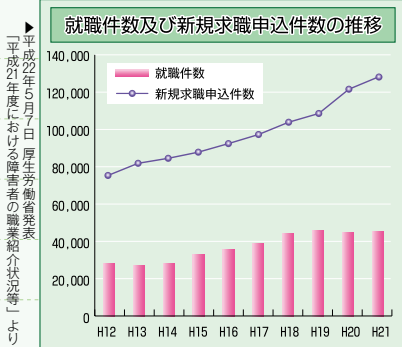
事業団では「水内荘（昭和37年開所）（*注2）」と「西駒郷（昭和43年開所）（*注3）」の2つの入所施設において、まだ社会的に障害者理解も希薄で法制度も整備されていない中において、昭和48年のオイルショックまでの期間、両施設とも突出して就労による退所者を輩出し、開所以降、実に370人の利用者を一般就労に繋げました。

そこで、今回の特集記事では、事業団の一般就労に向けた取り組みの歴史を振り返るとともに、松本ひよこの「就労移行支援事業」の現状を紹介する中で「働く」について考えます。

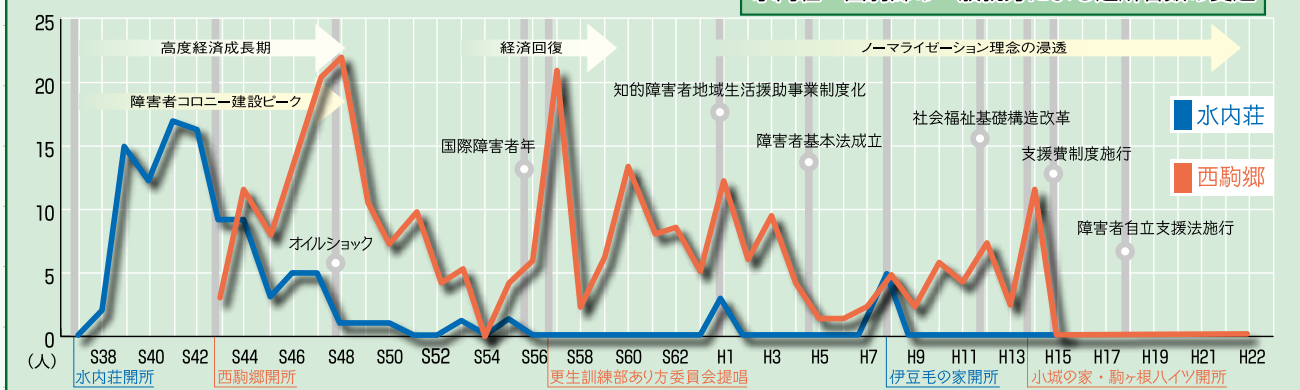
※注1 「平成18（身体）／平成17（知的）実態調査、平成20患者調査、平成20社会福祉施設等調査、平成21学校基本調査（文部科学省）、厚生労働省調べ」より抜粋

※注2 昭和40年3月までは「上水内郡福祉組合」が運営

※注3 平成17年4月に指定管理者として委任されるまでの運営主体は「長野県」



水内荘・西駒郷の一般就労による退所者数の変遷



一般就労に向けた
取り組み

西駒郷



西駒郷は全国で3番目の知的障害者のコロニーとして開所し、一般就労については「更生訓練部（更生施設）」が中心となり業務に当たりました。

当部は、「利用者を2、3年間で就職等により社会復帰に繋げる」という位置づけでスタートし、「生活指導」のほか、「職場実習」等（昭和57年専任職員配置）、一般就労に向けた支援を積極的に行ってきました。

その結果、右ページ下のグラフのとおり期間、8年のオイルショックまでの期間、そして昭和53年以降上昇が始まり昭和57年再度ピークを迎えています。この57年のピークは、社会の経済回復の影響や、昭和56年の国際障害者年、「完全参加と平等の思想」及び昭和57年の当部あり方委員会の「社会参加をするために西駒郷での訓練期間は5年未満とする」という提唱によるところが大きく、この影響は昭和60年まで見られ、職場開拓が保護者自身の手によってなされた例も多くありました。

就労先については、当時グループホーム等の制度が整備されていなかったことから、「住み込み可能」が必須条件となり、社員寮の整備された工場や旅館、牧場等が多く見られました。

そして、「職親会」（昭和56年発足）という西駒郷から就職した上伊那圏域内の企業間の横の繋がりが生まれ、一般就労の取り組みを後押しする結果となりました。また、西駒郷から県内各地に就職した者のアフターフォローとし

て「西駒郷就職者の会」「コスモス会」（平成10年発足）を作り出した。

しかし、開所20年を経過したころからは、養護学校の整備等が進み、入所者も児童や軽度者が減少する一方、発達障害者や重度者が増加する等、西駒郷への利用ニーズが変わり、一般就労に向けた取り組みは縮小することとなりました。

平成15年度に「西駒郷基本構想」に基づく「地域生活移行事業」の推進により、再度、地域生活移行者に対する一般就労に向けたうねりが起こったかに見えましたが、それ以降は、グループホーム等に移行し、就労支援事業所等を利用しながら一般就労への道を目指すというルートが一般化しました。

一般就労に向けた
取り組み

水内荘



水内荘は県内で1番、全国でも6番目にできた知的障害者の入所施設です。開所当時から「職業訓練」「自立更生」を重点事業とした結果、高度経済成長期という時代背景も相まって開所から昭和44年度末までの8年間で78人（退所者数の56%）が就職を果たしました。

就労先については西駒郷同様の傾向が見られますが、就労先から、引き続き「指導・援助」を要請されるケースが多かったため、先見的取り組みである「アフターフォロー事業」（県内外の就労先に出向き、生活状況や貯蓄状況、勤務状況等の確認・アドバイスを、就職者を当所と呼んでの「激励会」）を実施しました。

平成に入った頃から、就職者の高齢化等により、就労先から「雇用の継続が難しい」等の相談があり、当所やグループホーム等へ約20人ほどを移行することになりました。なお、一般就労に向けた取り組みとは若干異なりますが、当所の特徴的取り組みとして「援農事業」が挙げられます。

「援農事業」とは「農家を支援」する取り組みで、高度経済成長期に農家も専業から兼業に様変わりし、主力従事者も高齢化する中にある、地元農家の水田、畑、果樹等農業の担い手となり、ピーク時には年間延べ1500人が農家に出向しました。現在は、利用者の重度化・高齢化が進み、衰退してしまいましたが、本事業は一般就労への道を切り開くとともに、地域との関係を

築く礎となり、近年のグループホームの設置及びホームでの生活に大いに寄与する結果となりました。



思い出話に花が咲く

～コスモス会の取り組み～

西駒郷から移行した多くの就職者が、親しい仲であっても県内外にバラバラになってしまうケースが多かったため、アフターフォローとして、平成10年に会則を定め「西駒郷就職者の会「コスモス会」」活動を本格的に開始しました。

同会は「年に1回交流会を行い、みんなが元気で話したいのかどうかたしかめながら、楽しいひとときを過ごす（会則抜粋）」ことを活動目的とし、毎年1泊旅行をして親睦を深めてきました。

今年の「コスモス会」は平成22年11月6日～7日の1泊2日で蓼科高原（長野県茅野市）のホテルで開催され、会員36名のうち20名が出席しました。会場では、西駒郷入所当時の思い出話や欠席者の状況を確認をしい、来年度の計画では「ずいぶん変わった西駒郷の見学をやってみよう」などたくさん話ができ、参加者の充実した暮らしぶりを伺うことができました。（遠藤）



松本ひよこ (就労移行支援事業) の取り組み



松本ひよこの「就労移行支援事業」(定員10名)は、就労に興味がある方

(主に養護学校新卒者)や一般就労を目指している方に対し、当所での作業活動(パンの製造・販売、喫茶店)を通じて働くことの意義を感じていただくとともに、「就労学習会(月1回)」や「企業見学会(随時)」の開催、「就職面接会(年2回)」への参加などを通じ、一般就労に向けた準備をしながら就職活動をしています。

「就労学習会(表参照)」では、「SST(Social Skill Training)」を取り入れ、日頃参加者が苦手としているコミュニケーションのとおり方、接客の仕方等の学習に励んでいます。事業を開始して約2年が経過したわけですが、参加者の就労意欲は高くとも就労への道は険

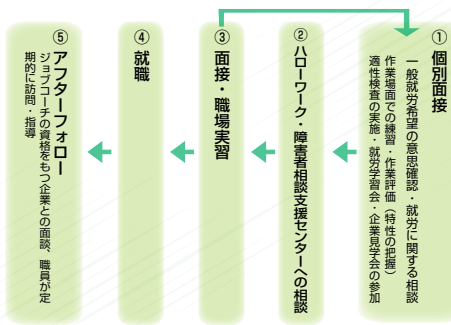
回数	内容
1	「自己紹介で自己PRしてみよう」
2	「自分の長所・短所を知ろう」
3	企業見学会
4	SST「自分の伝えたいことを上手に相手に伝えよう」
5	「お客様に言はれる接客をしよう」
6	「履歴書の書き方を練習しよう」
7	就職面接会参加「面接が上手にできるコツを知ろう」
8	「模擬面接をやってみよう」
9	企業見学会又はSST
10	「希望する職業を調べてみよう(求人情報の見方)」
11	一年の振り返り

今年度の就労学習会での年間プログラム

しく、現在までに一般就労に繋がった方は1名(事務職)、職場実習をしている方が2名(清掃作業・製粉作業)という状況です。当所では、それぞれの個性を活かして、職場で働いていける支援はもちろん就職者の職場定着に向けた「アフターフォロー」も行っています。(佐藤)



一般就労までの流れ



まとめ

一般就労に向けた取り組み

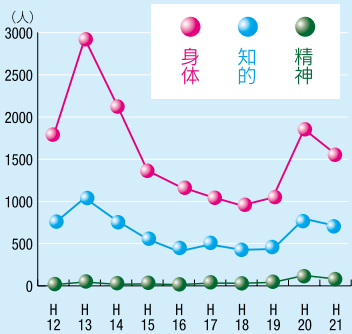
今回、入所施設から一般就労に向けた取り組みの歴史、そして松本ひよこの「就労移行支援事業」を紹介しましたが、「就職氷河期」と言われた2003年を上回る未曾有の就職難が差し迫る中において、障害者が一般就労することは、「障害者自立支援法の施行」や「障害者の雇用促進等に関する法律(障害者雇用促進法)」の改正・施行、「障害者職業センター設置」及びそれに伴う「トライアル雇用制度の創設」「ジョブコーチ支援」等、支援体制が整備された状況にあっても、より一層厳しさを増しています。

また、前にも述べたとおり、障害者の新規就職申込件数は右肩あがりにあるものの、左表のとおり障害者の解雇者数は平成20年度に前年比82.1%増加(平成21年度にやや減少)しており職場定着への支援も急務であることが見てとれます。

さて、今回紹介した2つの入所施設が今のようにフォーマルな支援体制が未整備の状況にあって、多くの一般就労者を輩出してきた背景は、高度経済成長期というプラス要因だけではなく、明確にテーマを掲げ支援にあたった当時の職員の努力と関係者の協力の賜物であることに気付かされるとともに、現在の就労移行支援事業への多くのヒントを見つけることができました。

今後、事業団は、西駒郷をはじめ他の事業所において「就労移行支援事業」や「就労継続支援A型事業」を本格的に計画しています。そうした中で、特に、就職者が安定的に定着できるように、過去のヒント(実績)「①職親会(西駒郷)」、「②就職者の会(西駒郷)、激励会(水内荘)」、「③アフターフォロー事業(水内荘)」等を色々な形で活かしていきたいと考えます。

障害者の解雇数の推移



平成22年5月7日 厚生労働省発表「平成21年度における障害者の職業紹介状況等」より

「働く」を考える

本紙特集記事第1章では、西駒郷授産部門の歴史の経過と分析を、第2章では、新事業体系に基づく事業団新設就労支援事業所の実践経過を、そして今回の第3章では、事業団入所施設2か所の一般就労に向けた事業の歴史の経過を紹介してきました。

この中で福祉的就労支援では、様々なニーズを持った利用者に対し、利用者一人ひとりが持っている力を十分に發揮し、「①達成感や充実感が得られる」「②社会的存在としての役割を認識できる」「③安定した工資が支給できる」このような事業所経営を目指すことを再確認しました。

また、作業種では「受託作業」に比べ「自主作業」が、作業環境の継続性や販売等を通じて顧客の顔の見える活動となるため、作業意欲の向上に繋がることがわかり、将来に向けては「福祉の手を借りず、利用者・職員含め自分たちの力で運営できる事業所づくり」も視野に入れることとしました。

そして現在、事業団として下火傾向にある一般就労に向けた事業では、定着化を図るために過去の「アフターフォロー事業」が参考になりました。

しかし就労支援事業の実情は、長野県という地域性、地域格差により、市街地と田舎での、作業発注企業、障害者雇用受入企業、就労希望者、送迎サービス等の確保の格差や課題が山積しています。事業団では引き続き就労支援を希望する利用者のニーズに耳を傾けつつ、各種制度の活用や事業団事業所間はもとより他法人や関係機関、一般企業との連携を密にしなが、一つ一つの課題を解決し、地域の特性を活かした事業を進めていきたいと思っています。(中村)



① 水内荘グループホーム・ケアホームセンター



水内荘では平成8年に事業団で初となるグループホーム『伊豆毛の家』で、利用者4名が地域生活をスタートさせました。

しかし、そのスタートは「順風満帆」とはいかず、今より「障害のある方が地域で暮らすことが当たり前でなかった」当時は、近隣住民からの反対もありました。しかし、「地域で暮らしたい」という本人の思いが原動力となり、紆余曲折の末に大きな一歩を踏み出すことになったのです。

その後、ホームを増やす中で、平成15年には自活訓練事業を開始、平成16年には長野圏域障害者総合支援センター「歩楽里」（相談支援事業、居宅介護等事業）を開設したことで、地域生活を支援する体制が整い、平成18年10月、障害者自立支援法施行と同時に当センターを開設しました。

現在は11ホームで53名の地域生活を支援していますが、特に余暇活動支援に力を入れており、余暇情報誌『ふらっと（映画等催し物や買い物情報等掲載）』の発行や本人部会『やぐも会』の活動支援（旅行・地域行事への参加・学習会等）を行っています。

利用者の高齢化・重度化が進む中ではありますが、地域の一員としてより豊かに暮らすことができるような支援を目指しています。（高橋）



② 松本ひよこ



「松本ひよこ」は、平成20年4月、「NPO法人ひよこ」から「ひよこ作業所（地域活動支援センター）」を引き継ぎ開所しました。

そして、同年11月、多機能型事業所として「就労移行支援事業」「生活介護事業」を行うとともに、翌年1月には「共同生活援助・

共同生活介護事業」を開始しました。

「就労移行支援事業」の事業所内就労支援としては、ウエス作業の他、毎日パンの製造・出張販売を行い、週1回は喫茶店を営業して自家焙煎のホットコーヒーと共にパンを提供することもできます。「生活介護事業」では、日常の介助・支援の他、週3回の入浴サービスを行っています。

そして、現在3棟となった各ホームでは各々自分のスタイルで生活し、休日は買物に出かけたり、地域のイベントや行事にも参加しています。

今後は「就労継続支援B型事業」の導入を計画するとともに、今春には事業団が県の指定管理を受ける信濃学園過齢児の地域生活移行を目的とした「重度障害者等包括支援事業」を開始する予定です。

それぞれの事業で皆さんのいきいきとした笑顔が見られるように「自分らしい暮らし」のお手伝いが出来れば良いと思っています。（佐藤）



③ 辰野町地域活動支援センター



「辰野町地域活動支援センター」は、平成19年4月に辰野町から指定管理をうけて事業団が運営しています。

平成21年4月、「辰野町障害者就労支援センター」の隣設に伴い、働くことに重点を置いていた利用者がそちらに移動したため登録者は10名ほどまで減少し、作業中心であった活動から、作業にのれない方も参加できるよう余暇の内容も取り入れた活動に変化してきました。

1年半が経過し、現在では登録者も21名に増え、利用者のニーズも多様化してきました。

活動内容は、自主生産作業のウエス作業やボカシ・紙薪作りのほか、利用者の要望などを聞きながら週1回のカラオケや月1回の手話ダンス・陶芸教室、軽スポーツなどを行っています。

より多くの利用者の皆さんの笑顔が見られ、「また来たい」と思える場所になるよう、職員一同努力してまいります。（小野）




松本ひよこ
①春のひよこ祭 ②秋のひよこ祭

開催日 ①6月19日(出) ②10月16日(出)
 参加者数 ①約80名 ②約100名

イベント内容
 共通: パン特価販売、喫茶コーナー、フリーマーケット等
 ①バンド演奏、木工教室、ゲームコーナー
 ②チンドン、マジックショー、ゴスペル、整体コーナー等

コメント
 開所3年目の「松本ひよこ」が開催する春・秋2回の「ひよこ祭」は地域の皆さんに評判で、当日は特価パンや各種イベントをお目当てに多くの皆さんで賑わいました。



八雲作業所
八雲月見の会

開催日 9月4日(出)
 参加者数 約160名

イベント内容
 自主製品販売(うどん、おやき、染物)、流し冷麦、紙芝居等

コメント
 名物の「流し冷麦」を楽しみに多くの子どもたちが集まり、とてもアットホームな雰囲気で開催されました。



事業団の福祉サービス事業所では「地域と施設を繋げる橋渡し」として夏・秋シーズンを中心に「祭」を開催しています。今回はその「祭」の状況を紹介します。

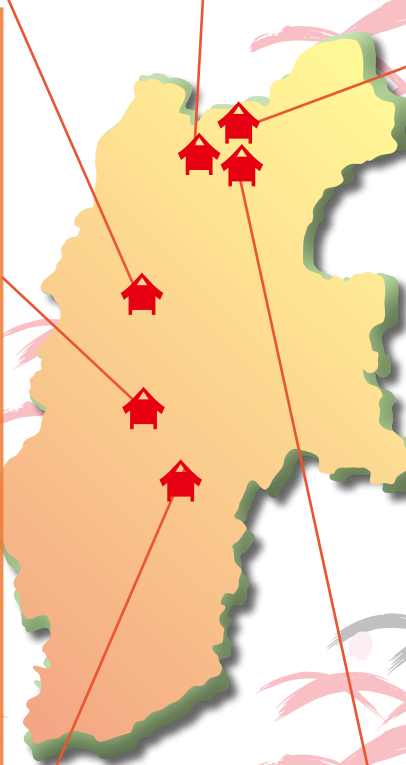


ほっとワークス・みのわ
ほっとワークス感謝祭～ありがとう5周年～

開催日 9月25日(出)
 参加者数 約170名

イベント内容
 パン直売、手芸品販売、太鼓演奏、ダンス、ゲームコーナー等

コメント
 パン直売コーナーは行列ができるほどの大賑わい！祭りを通じて、さらに多くの方がパンを買いに来てくださるようになりました。

水内荘
泉水祭り

開催日 7月24日(出)
 参加者数 約500名

イベント内容
 ステージ発表(ダンス・太鼓・三味線・清水まなぶさんライブ)、模擬店(八雲冷麦、松本ひよこパン等)、ゲームコーナー等

コメント
 清水まなぶさんのミニライブもあり、ステージ発表は大好評！恒例の打ち上げ花火も大いに盛り上がりました。



西駒郷
にしごま祭

開催日 10月16日(出)
 参加者数 約700名

イベント内容
 ステージ発表(ダンス、太鼓等)、作品等展示・販売、模擬店(釜飯、豚汁等)、ツリークライミング等

コメント
 初めての試みとして、利用者にも実行委員として企画から参画してもらいました。当日は、地域生活移行した皆さんが多く参加し、会場には利用者や職員との再会を懐かしむ姿が見られました。



長野県障害者福祉センター サンアップル
納涼祭

開催日 7月24日(出)
 参加者数 約1,500名

イベント内容
 ステージ発表(チアリーディング、フラメンコ、フラダンス、職員劇等)、お化け屋敷、各種体験コーナー(ミニSL、切り絵等)、障害者団体自主製品販売コーナー等

コメント
 今回のテーマ「『つながり』～咲かせよう 笑顔の花～」にそって施設内に花の飾りつけを行い、皆さん笑顔で祭を楽しんでいただきました。



つれづれ福祉

得てして福祉サー

ビス事業所は外部との接点が少なくなりがちですが、ボランティア活動は事業所に「風」を吹き込む良い機会となっております。

今回は各事業所のボランティア活動の様子を紹介しします。

長野県障害者福祉センター サンアップル

サンアップルと県内3か所の各サンスポートでは、ボランティアを希望される地域の方々には、ボランティア登録をしていただき、各種大会・教室等の運営補助から広報紙・チラシの発送作業まで幅広く活動いただいています。

平出勲さんには、毎年クリスマス会のサンタクロースとして意欲的にご協力いただいております。年々グレードアップする手作りトナカイは子どもたちに大人気です。

これからも応援よろしくお願ひします！ (佐藤)



八雲日和

※八雲日和では、ボランティアを希望される方に、まず「どんな活動をしたか」という質問をさせていただいています。ボランティア活動が、その方にとっても「やりがいのある時間」であって欲しいと思っているからです。

現在、ご自身の特技を活かし「オカリナを吹かれる方」と「陶芸をされる方」2名が月2回程度来て下さっています。



「あくまでもみんなの歌の伴奏をしているだけ」というオカリナの百瀬明子さんを心待ちにしている利用者も大勢おり、オカリナが始まるや表情はどんどん明るく柔らかくなり、歌が歌にならなくてもオカリナの音色に包まれて穏やかに優しい時間が流れます。

特技が思い浮かばない方も、ボランティアのカタチにかかわらず興味のある方は是非お越し下さい。(林)



西駒郷

西駒郷では、地元の各種団体や保護者会をはじめ、多くの皆さんに様々なボランティア活動をしていただいています。具体的には「建物内外の掃除」や「行事への協力」、「利用者の日中活動への参加(機能訓練・音楽等)」等ありますが、特徴的活動として、平成8年から始まった「あすなる売店」が挙げられます。

「あすなる売店」とは、ボランティアの方が、お菓子やジュースなどをあすなる寮まで売りに来てくださるとい



うもので、毎月の恒例行事となっております。この活動の背景には、西駒郷の近隣に売店がないことや、当時は行動障害等により外出機会が極端に少ない利用者がいたことなどがありました。

買い物外出が当たり前となった今日でも、利用者は「あすなる売店」が開店する毎月第1日曜日には、お小遣いを持っておやつを買いに行くことが楽しみの時間となっております。(真鍋)



ボランティア活動 4つの心がまえ

- 1 自分からすすんで行動する (自発性)
- 2 とともに支え合い学び合う (社会性)
- 3 見返りを求めない (無償性)
- 4 アイデアをいかす (創造性)

自由な発想やアイデアを大切にしながら、新しい方法やしくみをつくり出すことが必要です。

(資料提供：長野県社会福祉協議会 ボランティア地域活動センター)

【西駒郷「あすなる売店」】 ボランティア 原田 ツネさん



お忙しい中、本当にありがとうございます。

Q ボランティアを始めたきっかけはどんな感じだったのですか？
A 私は20年間続けた販売員の仕事を定年退職しまして、まだまだ色んなことをしたいと思っていたんです。「売店だったら私にもできるかな」と思いまして、それがきっかけです。

Q すべて一人でやっているのですが、大変ではないですか？
A そうですね、仕入れがちょっと大変ですね。利用者さんが色んなお菓子を选べるように、60〜70種類は用意するようにしているので、でも「選んで買う」ということがすごく大切だと思っ

ているので、この売店がそういう練習になればいいなと思っっています。

Q 最後に一言お願いします。

A この前、にしこま祭に来た時、利用者さんから「おばちゃん、次の売店はいつ？」とたくさん聞かれました、楽しみにしてくれているんだな、と思いました。そういう言葉を聞く癒されるし、とても励まされます。私も車を運転して、計算ができるようには頑張ります。よろしくお願ひします。

「県立2施設」の指定管理者として選定されました！」

施設名	信濃学園	松本あさひ学園 (白旗訪湖健康学園)
種別	知的障害児施設	情緒障害児短期治療施設
設置年月日	昭和26年4月	昭和42年1月
設置場所	松本市波田	松本市旭町 (平成23年4月移転新築)
定員	30人	35人(うち通所5人)
事業目的	知的障害のある児童を入所させて、これを保護するとともに、自立自活に必要な知識及び技能を授ける。	軽度の情緒障害を有する児童を、短期間、入所させ、又は保護者の下から通わせて、その情緒障害を治し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行う。
児童の状況	強度行動障害を持つ児童が多い。	被虐待により利用する児童が多い。

来年度から5年間(平成23年4月1日～平成28年3月31日)、県立2施設の指定管理者として運営を行うこととなりました。

これで事業団としても本格的に「児童福祉」の分野に足を踏み入れていくことになりま。引き続き皆さまのご支援で協力をよろしくお願ひいたします。



『アルプスの秋』
合田秀明さん



『誕生』
竹内一貫さん

善光寺への初詣と併せ、是非鑑賞下さい。



去る平成22年9月18日(土)～20日(月)祝)の3日間、長野県障害者福祉センター「サンアップル」(長野市)で開催された「夢・アートフェスタながの」(第13回長野県障害者文化芸術祭)「作品展」(絵画・手芸・工芸・書道・写真の5部門470点出品)の絵画部門で西駒郷利用者の合田秀明さん(写真左)と竹内一貫さん(写真右)が優秀賞に輝きました。

西駒郷利用者2名が「長野県障害者文化芸術祭」『作品展』で優秀賞を受賞！

なお、事業団では「障害者芸術作品特別展示事業」として、前述2作品を含めた各部門受賞作品20点を平成23年1月15日(土)～30日(日)の2週間、長野県信濃美術館(長野市)にて展示します(無料)。

人事異動

事業所間異動等

- (平成22年10月1日付)
- サンスポートまつもと
指導員 清水 美沙 (サンアップル 指導員)
- (平成23年1月1日付)
- 事務局付(信濃学園)
専門員 小野沢 真 (西駒郷 ひまわり寮副寮長)
- 事務局付(松本あさひ学園)
専門員 今村 秀枝 (西駒郷 さくら寮副寮長)
- 心理・支援員 山崎 晴加 (西駒郷 心理・支援員)



松本ひよこ
「パン工房あずさ」
所長 佐藤 靖 からのメッセージ

「地域で暮らしたい」「地域で働きたい」「仲間との日中活動の場がほしい」松本ひよこはそんな皆さんの願いをお手伝いしています。「パン工房あずさ」の売りはなんといっても「焼きたて」の美味しさです。常時20種類以上を用意しております。また、オリジナルブレンド自家焙煎コーヒーも焼きたてパンと相性抜群の隠れた逸品です。ぜひご賞味下さい。



プレゼント

事業団だより「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④TELを記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せ下さい。

3月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「松本ひよこ『パン工房あずさ』の「焼きたてパン引換券&自家焙煎挽きたてコーヒー豆」を5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

(プレゼントの発送は4月頃を予定しています)

*個人情報商品の発送の目的にのみ利用させていただきます。



日々寒さが増していく「師走」、「冬」。私は奥信濃飯山の冬景色が目につかびます。新潟に向かう電車に乗り、この景色―「辺り一面の銀世界」―を見るのが毎年の楽しみです。

さて、今回の「やまなみ」特集記事では、西駒郷、水内荘のこれまでの一般就労の取り組みを、社会的変遷との関係も感じながら、足跡を追っていきました。また、若輩者の私にとってはとても新鮮で、事業団の歴史を学ぶ貴重な機会となりました。

私もこの冬は家でゴロゴロせずに、近隣のスキー場に行き、雪景色の中でボーゲン卒業できるように頑張ります！

これからも「やまなみ」を宜しくお願いします。
(真鍋)

編集後記

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
tel: 026-228-0337 fax: 026-228-0310
URL: <http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/>